

「ロタウイルス胃腸炎」

庄原赤十字病院
小児科医師 早川 誠一



寒さの厳しいこの季節は、いろいろな病気が流行し、小さい子どもを持つ親には心配が多いと思います。今回は、嘔吐下痢症の一つ「ロタウイルス性胃腸炎」についてお話します。

①嘔吐下痢症とは

お腹の風邪、ウイルス性胃腸炎などと呼ばれる、ロタウイルス、ノロウイルス、アデノウイルス、サツポロウイルス、アストロウイルスなど、さまざまなウイルスが原因となります。なかでもロタウイルスによる胃腸炎が重要です。ロタウイルスによる胃腸炎は冬季から初春に流行が見られ、3歳未満の乳幼児では重症な嘔吐下痢を引き起こし、強い脱水のために入院が必要になることもあります。

②症状は

多くは感染してから2〜3日おいて突然の嘔吐が始まります。高熱や腹痛を伴い、続いて下痢が出現します。嘔吐は2〜3日、発熱は半日〜2日、下痢は5〜7日ほど続きます。下痢は白色で酸っぱい臭いがするのも特徴です。

③診断は

流行状況や便の性状からロタウイルス胃腸炎を推測することは比較的容易です。疑われた場合には便で簡単に検査できます。

④治療は

ウイルスを直接治療する方法はなく、対症療法となります。整腸剤でお腹の環境を整えたり、吐き気止めで症状を抑えたりします。脱水が強い場合は、点滴を行います。脱水が軽度の場合は経口補液剤が有効です。経口補液剤とは、嘔吐下痢によって失われる電解質、水分の吸収を良くするように調節した薬で、薬局でも手に入ります。

⑤脱水の評価

治療を行う上で脱水の評価は重要です。脱水を起こすと、大泉門が陥凹（くぼむ）、涙がでない、舌が乾く、皮膚の弾力がなくなる、おしっこが少なくなるといった兆候が見られます。体重減少や、循環状態（脈拍数や毛細血管再充血）による客観的な評価も大事です（下表を参照）。普段の体重を把握しておいてください。

⑥受診のタイミング

1〜2回程度の嘔吐で、水分が取れるようなら家庭で様子が見られます。短時間に嘔吐を繰り返す、吐いた物に血液や胆汁（黄緑の液）が混じる、お腹が膨らんでいる、意識がはっきりしない、強い腹痛がある、半日以上おしっこがないといった症状がある場合は至急受診してください。

⑦家庭での注意点

家庭では、水分・食事の取り方、開始するタイミングが重要です。吐き気が落ち着いたら、まず水分から取るようにします。経口補液剤、子ども用のイオン水、麦茶、湯冷ましなど一番飲みやすいものでよいのですが、スポーツドリンク、牛乳、ジュースは避けてください。1回量は少なく（30〜50ml）、30分ほどして嘔吐がなければ繰り返し、それでも嘔吐がなければ欲しがらる量を与えてください。水分がしっかり取れば、食事を開始。最初は普段の半分量ぐらいから開始し、油もの、生もの、乳製品（ヨーグルトは除く）は控えてください。また、母乳やミルクは続けてください。



脱水の重症度

	軽度	中等度	重度
体重減少	5%未満	5〜10%	10%以上
脈拍	正常	頻脈	頻脈で微弱
毛細血管再充血	2秒未満	2〜3秒	3秒以上

毛細血管再充血：母指の爪または踵を白くなるまで圧迫し、それを離れた後に皮膚の色が元に戻るまでの時間

家庭での感染も注意が必要です。汚物の処理はビニール手袋を用い、床についたものはペーパータオルなどでふき取ってください。その上から塩素系漂白剤を50〜100倍に薄めたもので消毒。処理後は石鹸を用いてしっかり手を洗ってください。